

平成 25 年 3 月 22 日

報道関係各位

＜地球館2階 日本の宇宙開発コーナー(常設展示)＞

－日本の宇宙開発に関する新規資料を公開－

公開日：平成 25 年 4 月 1 日 (月)

平成 22(2010)年 6 月、独立行政法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA)が運用する小惑星探査機「はやぶさ」が、幾多の困難を乗り越え小惑星イトカワにおいて採集したサンプルを地球に持ち帰り、大きな感動を巻き起こしたことは記憶に新しいところです。

このストーリーは映画化され何本かの作品が制作されました。それらの作品のひとつである「はやぶさ 遥かなる帰還」(東映)の撮影用に製作された「はやぶさ」実物大復元模型や、はやぶさに先駆けて開発された次世代型無人宇宙実験システム(USERS)REVをこのたび当館において常設展示として 4 月 1 日(月)から一般公開いたします。

日本の宇宙開発史を理解するための貴重な資料ですので、広報について格段のご配慮をよろしくお願いいたします。

本件に関するお問い合わせ先

【展示予定に関する問合せ】

国立科学博物館 事業推進部 広報・常設展示課 担当：池本、酒井、田邊
〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20 E-mail: jyo-ten@kahaku. go. jp
TEL 03-5814-9851、9852 FAX 03-5814-9898

【展示資料に関する学術的な問合せ】

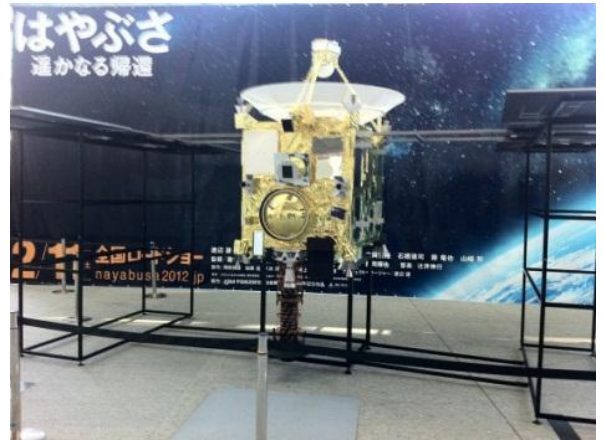
国立科学博物館 理工学研究部 科学技術史グループ長 鈴木一義
〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 (代表)029-853-8901

新規公開資料

1. 「はやぶさ実物大復元模型」

- ① 大きさ： 約 1m×約 1.6m×約 2m
太陽電池パドルの端から端まで約 5.7m

② 映画「はやぶさ 遙かなる帰還」(配給：東映 公開:2012年2月11日 主演:渡辺 謙)の撮影用に製作された。科学の普及と振興に役立てるため「はやぶさ 遙かなる帰還」製作委員会より当館に寄贈いただいたものである。



2. REV (リカバリービーグル)

- ① 大きさ： φ147.5cm×高さ 132cm
- ② 「はやぶさ」や「SFU」に先駆けて、宇宙空間において無人で実験を行った後、その成果を地上に戻す次世代型無人宇宙実験システム (USERS) として開発された。
超電導材料製造実験用電気炉及び再突入飛行環境光学計測装置を搭載しH-IIA ロケットで打ち上げられ、実験後、大気圏に再突入し回収された。
独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) から寄贈いただいたものである。



参考：地球館 2 階平面図

